

想定東南海・南海地震による伊勢湾津波防災情報図広域版（進入図）

計算条件：最高水面・150mメッシュ
 隆起量：平均-17cm（-78cm~135cm）

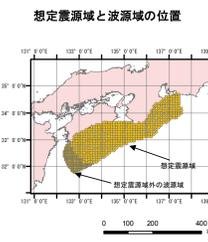
この図は、想定東南海・南海地震により発生する津波を150mメッシュで計算した概要版であり、港湾や沿岸域の情報は必ずしもシミュレーション結果が正確に反映されていません。なお、津波防災情報図（50mメッシュ）のある海域はそれを参考にしてください。



1:150,000

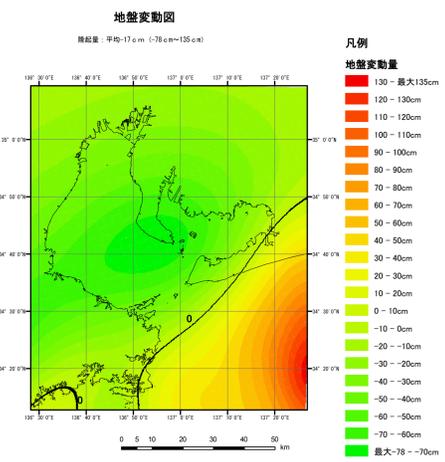
座標系：メルカトル図法 (Lat 35)
 測地系：世界測地系 (WGS84)

- 凡例**
- 水位上昇 (+10cm) となる等時線 (分)
 - 経時変化図出力点
 - 最大水位上昇
 - 600~最大960cm
 - 550~600cm
 - 500~550cm
 - 450~500cm
 - 400~450cm
 - 350~400cm
 - 300~350cm
 - 250~300cm
 - 200~250cm
 - 150~200cm
 - 100~150cm
 - 50~100cm
 - 50cm未満
 - 進入時最大流 (knot)
 - 3knot
 - 2knot
 - 1knot

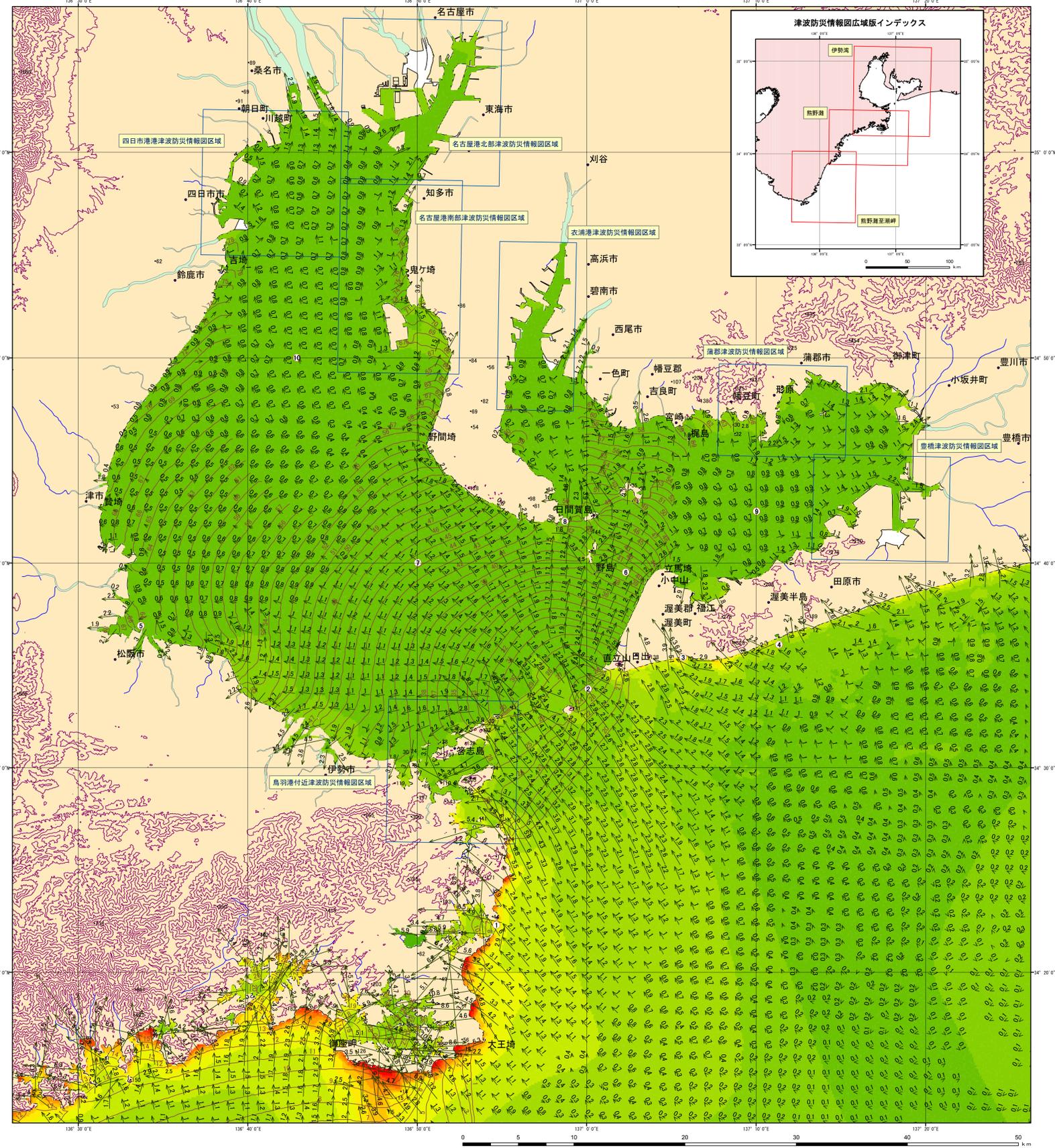


マクロ的に見たパラメータ	南海地震	東南海地震
断層面積 S (km ²)	約 35,500	約 14,500
地震モーメント Mo (N·m)	8.34 × 10 ²⁷	2.15 × 10 ²⁷
平均すべり量 D (m)	5.70	3.63
モーメントマグニチュード Mw	8.55	8.15

*本図は、中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」で公表された断層モデル及び断層パラメータを使用しています。



この地盤変動図は想定東南海・南海地震で発生する地盤の隆起量を表示している。



この図は、震源域から断層のシミュレーションを行い作成しており、最大流速の方向は150mメッシュ9×9（1,350m×1,350m）の81個から最大の津波（押波）の速さと方向を表示しています。
 *表示されている津波水位は津波による潮流と向流のみで、海流の差は考慮されていません。
 *津波の到達時刻を表示した等時線は、水位が10cm上昇した時点を示したものです。
 *本図に使用したデータは、海上保安庁津波情報図の1:50,000、1:10,000、沿岸域の基本地形データ及び海図を作成する際の基礎データ等を使用しています。
 *陸域の情報は海図から採用しています。

作成機関：第四管区海上保安本部
 作成年月：平成20年1月

経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。
 この図は、震源域から断層のシミュレーションを行い作成しており、最大流速の方向は150mメッシュ9×9（1,350m×1,350m）の81個から最大の津波（押波）の速さと方向を表示しています。
 *表示されている津波水位は津波による潮流と向流のみで、海流の差は考慮されていません。
 *津波の到達時刻を表示した等時線は、水位が10cm上昇した時点を示したものです。
 *本図に使用したデータは、海上保安庁津波情報図の1:50,000、1:10,000、沿岸域の基本地形データ及び海図を作成する際の基礎データ等を使用しています。
 *陸域の情報は海図から採用しています。

